

**Express5800/320Lb2-R ユーザーズガイド正誤表**

856-125476-001-B

2007 年 3 月 第 2 版

説明書名 : Express5800/320Lb2-R ユーザーズガイド (856-125475-001-A) 初版

【区分】A:追加 C:訂正 D:削除 E:その他

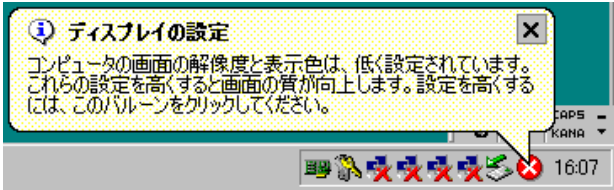
## ■ 2 知っておきたいこと

Page	位置	区分	正誤内容	
2-9	運用・操作に関する注意事項	A	正	！ 起動中に電源を切らない □ 電源を ON にした後、起動中に電源を切らないで下さい。 → 次回起動時に正常に起動しなくなる可能性があります。OS が起動し、二重化処理が完了するまでシャットダウンを行わないで下さい。
			誤	

## ■ 3 Windows の操作と設定

Page	位置	区分	正誤内容	
3-14	[RDR 機能を利用する上での注意点]	A	正	● ディスクのインポートはサポートしていません。 OS の再インストールを行う場合は、必要に応じてデータディスクのバックアップをとった後、全ディスクを物理フォーマットしてください。 再インストール後、バックアップからデータをリストアしてください。
			誤	

## ■ 7 故障かな？と思ったときは

Page	位置	区分	正誤内容	
7-28	<u>画面右下に「ディスプレイの設定」が表示される</u>	D	正	
			誤	<p><b>画面右下に「ディスプレイの設定」が表示される</b> → 次の[画面の色]設定を[中(16ビット)]以上に変更してください。 [画面のプロパティ]-[設定]タブ-[画面の色]</p> 

Page	位置	区分	正誤内容	
7-34	<u>ネットワーク上で認識されない</u>	C	正	<p>□転送速度の設定を間違えていませんか？ → Express5800/ftサーバに標準で装備されている内蔵のLANコントローラは、転送速度が1000Mbps、100Mbps、または10Mbpsのいずれかのネットワークで使用することができます。</p> <p>転送速度はPROSet IIにて設定します。 左側のツリーにて変更するアダプタを選択し、100Baseアダプタの場合は[Advanced]タブをクリックし、[Link Speed &amp; Duplex]にて設定を行います。1000Base-Tアダプタの場合は[Link Config]タブをクリックします。[Auto Negotiation]に「Enable」を選択し、[Negotiable Speed and Duplexes]で転送速度を設定します(使用する転送速度のみチェックを行う)。</p> <p>Hub側の速度設定は、100Baseアダプタと接続する場合は固定速度設定、1000Base-Tアダプタと接続する場合は、オートネゴシエーションに設定してください。</p>
			誤	<p>□転送速度の設定を間違えていませんか？ → Express5800/ftサーバに標準で装備されている内蔵のLANコントローラは、転送速度が1000Mbps、100Mbps、または10Mbpsのいずれかのネットワークでも使用することができます。この転送速度の切り替えや設定はOS上から行えますが、「Auto Detect」という機能は使用せず、接続しているHubと同じ転送速度で固定に設定してください。また、接続しているHubとデュプレックスモードが同じであることを確認してください。</p> <p>転送速度を固定にするにはPROSet IIにて設定します。 左側のツリーにて変更するアダプタを選択し、100Baseアダプタの場合は[Advanced]タブをクリックし、[Link Speed &amp; Duplex]にて設定を行います。1000Base-T アダプタの場合は[Link Config]タブをクリックします。[Auto Negotiation]に「Enable」を選択し、[Negotiable Speed and Duplexes]で転送速度を設定します(使用する転送速度のみチェックを行う)。</p>

Page	位置	区分	正誤内容	
7-39	ページの最後に追加	A	正	<p>◎「<u>システムのプロパティ</u>」において、メモリサイズが搭載メモリ未満に表示される</p> <p>◎<u>タスクマネージャ上の「物理メモリ」の値が搭載メモリ未満に表示される</u></p> <p>→搭載メモリが 4GB を超える場合(または「システムのプロパティ」-「全般」タブ、および「タスクマネージャ」-「パフォーマンス」タブの物理メモリに表示されるメモリサイズが搭載メモリより小さい場合)には、BOOT.INI ファイルに/PAE スイッチを指定する必要があります。</p> <p>指定方法の詳細については、マイクロソフト サポート技術情報を確認してください。</p> <p>BOOT.INI ファイルは以下の手順で表示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.マイコンピュータを右クリックして「プロパティ」を選択し、「システムのプロパティ」を表示する。</li> <li>2.「システムのプロパティ」-「詳細設定」タブの「起動と回復」の「設定」ボタンを押下する。</li> <li>3.表示された画面の「起動システム」の「編集」ボタンを押下する。</li> </ol> <p>BOOT.INI が以下のような場合の修正例を示します。</p> <p>(修正前)</p> <pre>[boot loader] timeout=30 default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT [operating systems] multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT="Windows Server 2003, Enterprise" /fastdetect</pre> <p>(修正後)</p> <pre>[boot loader] timeout=30 default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT [operating systems] multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT="Windows Server 2003, Enterprise" /fastdetect /PAE</pre>
			誤	

## ■ 8 システムのアップグレード

Page	位置	区分	正誤内容	
8-16	重要	A	正	<p>● 搭載メモリが 4GB を超える場合(または「システムのプロパティ」-「全般」タブ、および「タスクマネージャ」-「パフォーマンス」タブの物理メモリに表示されるメモリサイズが搭載メモリより小さい場合)には、BOOT.INI ファイルに /PAE スイッチを指定してください。</p> <p>Windows システムから搭載メモリ全体を利用するためには、/PAE スイッチを指定する必要があります。/PAE スイッチを指定しなかった場合、Windows システムは搭載メモリの一部のみを利用します。</p> <p>指定方法の詳細については、マイクロソフト サポート技術情報を確認してください。</p> <p>BOOT.INI ファイルは以下の手順で表示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マイコンピュートを右クリックして「プロパティ」を選択し、「システムのプロパティ」を表示する。</li> <li>2. 「システムのプロパティ」-「詳細設定」タブの「起動と回復」の「設定」ボタンを押下する。</li> <li>3. 表示された画面の「起動システム」の「編集」ボタンを押下する。</li> </ol> <p>BOOT.INI が以下のような場合の修正例を示します。</p> <p>(修正前)</p> <pre>[boot loader] timeout=30 default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT [operating systems] multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT="Windows Server 2003, Enterprise" /fastdetect</pre> <p>(修正後)</p> <pre>[boot loader] timeout=30 default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT [operating systems] multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT="Windows Server 2003, Enterprise" /fastdetect /PAE</pre>
			誤	



\*856-125476-001- BU\*